

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2010年4月調査結果-

2010年5月13日

## 調査要領

○調査期間 2010年4月16日～22日  
○調査対象 200社  
○回答企業 134社  
○回収率 67.0%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を合わせ回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI値＝（増加・好転などの企業割合）－（減少・悪化などの企業割合）  
業況・採算：（好転）－（悪化） / 売上：（増加）－（減少）

## 旭川市概況

※全産業の4月の状況を見ると業況DIは、前月より20.7ポイント回復の▲37.8。

平成7年4月調査開始以来181ヵ月連続マイナス2桁水準で推移している。

業種別では、5業種とも回復となった。

※向こう3カ月の先行き見通し業況DIは▲40.3と悪化しており、依然として厳しい状況である。

業種別でみると、製造業、卸売業で悪化しており、地域経済や足下の景気感は依然として厳しい状況となっている。

## 旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

|      | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 先行き見通し<br>5～7月 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|
| 業況   | ▲57.3 | ▲62.3 | ▲60.8 | ▲57.4 | ▲58.5 | ▲37.8 | ▲40.3          |
| 売上   | ▲58.1 | ▲49.6 | ▲47.9 | ▲41.8 | ▲30.5 | ▲20.0 | ▲31.1          |
| 採算   | ▲46.8 | ▲51.6 | ▲46.3 | ▲40.2 | ▲33.1 | ▲29.6 | ▲31.9          |
| 仕入単価 | ▲10.5 | ▲15.6 | ▲13.3 | ▲22.1 | ▲17.8 | ▲34.1 | ▲34.1          |
| 従業員  | ▲14.6 | ▲13.9 | ▲17.5 | ▲21.3 | ▲12.7 | ▲7.4  | ▲12.6          |
| 資金繰り | ▲24.2 | ▲27.0 | ▲25.0 | ▲30.6 | ▲26.3 | ▲16.4 | ▲21.6          |

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

|      | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 先行き見通し<br>5～7月 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|
| 建設   | ▲59.3 | ▲56.0 | ▲64.0 | ▲65.4 | ▲68.0 | ▲50.0 | ▲46.4          |
| 製造   | ▲52.2 | ▲54.2 | ▲50.0 | ▲57.7 | ▲58.3 | ▲22.6 | ▲33.3          |
| 卸売   | ▲59.3 | ▲55.6 | ▲59.3 | ▲50.0 | ▲40.0 | ▲28.1 | ▲37.5          |
| 小売   | ▲65.2 | ▲68.2 | ▲66.7 | ▲52.6 | ▲50.0 | ▲34.8 | ▲34.8          |
| サービス | ▲50.0 | ▲79.2 | ▲65.2 | ▲60.9 | ▲77.3 | ▲61.9 | ▲52.4          |

## 今月のトピックス（業界の声）

|       |  |
|-------|--|
| 建設業   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 22 年度の公共事業費が、過去最大の下げ幅となり民需が低迷する中、今年度の受注は前期比約 50% 減少を見込む。売上が大幅に減少し採算も悪化するものと思う。</li> <li>・新築契約は少し明るい兆しが見えているが、採算面での好転は見込めない。顧客指向を把握し独自性、他社との差別化が生き残りへの課題。</li> <li>・スタートは持ち直す兆しもあるが、先行きが不透明。営業増員して乗り切る体制化を図る。</li> <li>・雪解けが遅く塗替え工事の出足がにぶっている。徐々に工事の発注も出てくると思われる。</li> <li>・新しい動きが見えず停滞している。今後の見通しがつかず不安定な状況。</li> <li>・例年より工事開始日を早めたため、売上は前年同月より増加が期待できる。</li> </ul>                        |
| 製造業   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本州方面からの受注は、昨年より増えつつあるが地元からの話は極端に少ない。選挙もあり政治も不安定、原材料も上昇し不安材料が山積み。</li> <li>・3 月から 4 月にかけて仕事の入り具合は少し上向きになってきている。このまま上向いて行けば良いがそうはいかないと思う。</li> <li>・予告通り鋼材の価格が上がってきた。追っかけ再値上げがあるというがどこまでいくか心配である。新年度に入り受注は激減の見通しのため心配はこの上ない。</li> <li>・今月に入り特注の注文も少なくなっている。取引先の話では単価が厳しく、見積もりしても 1 割から 1.5 割安くしなければ取れない状況となっている。</li> <li>・天候不順による野菜原料の高騰（通常の 2～3 倍）による仕入単価の上昇。卸価格は年間同一のため、値上げ交渉は難しい。</li> </ul> |
| 卸売業   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度スタートとなったが、いきなりの天候不順の影響を受け行き先は不明。更なる注視が必要。</li> <li>・季節感的春物の売上が 3 月から 4 月に移動した。景気、人口減（道北）による売上減が回復の兆しがなしで先行き不安感。</li> <li>・前年度分の物件が今月位まではあり前年度同月よりも売上は良いが、来月以降の見通しは不透明。</li> <li>・天候異変による遅い雪、低温による生育遅れ、購買力低下が顕著に現れた月となった。</li> <li>・新年度に入り若干商況がよくなってきている様に感じるが、先行きを考えると不安要素が多い。</li> </ul>   |
| 小売業   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボトルウォーター事業は開業して丸 3 年が経過し、解約率は減少し認知度も向上した。ウェブ事業も前年対比大きな伸びを示しており、特に関東周辺への出荷が多い。</li> <li>・4 月の観光業界は来道する人が少ないため GW は平静に見えるが、この時期はいかに動くかで年間の売上が決まるため、皆必死に営業をしている。</li> <li>・エコカー減税車を中心に受注が入っている。昨年今頃からプリウスが発売となり受注が上向いていたため、前年比としては 85% 程度。天候不順のため、タイヤ交換の顧客の入庫が遅れ気味でサービス在庫量はやや少ない。</li> <li>・前年同様売上は低く、4 月（新年度）を迎えても特に変化はない。</li> </ul>  |
| サービス業 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・4 月上旬は昨年並みの歓送迎会があったが、中だるみ感がある。GW に期待をかけたいたが、高速道路料金定額乗り放題で、流失と入込がどのような形になるか読めない。また、天候不順で野菜価格の高騰が収益に影響する。早急な対策が必要だと思う。</li> <li>・旅客数の落ち込みが 3 月下旬より続いている。GW に期待。</li> <li>・需要停滞の中、天候不順による影響でかなり厳しい状況である。しかし、これからは手堅く徐々に売上げが見込める。</li> <li>・新規開業のホテルがあり、一層の競争激化の状況となる。販売稼働室の落ち込みをカバーするように単価の下落となった。</li> <li>・冷涼な気候で売上げが去年の 15% 落ち。ヨーロッパから輸入されている食材の値上がりが心配。すでに国産野菜の値上げに悲鳴を上げている。</li> </ul>       |

## 旭川市の産業別概況

| 産業    | 概況  |
|-------|---|
| 建設業   | <p>売上 DI10.6 ポイント、仕入単価 DI1.4 ポイント、従業員 DI2.7 ポイント悪化。採算 DI11.9 ポイント、資金 DI10.6 ポイント回復、総じて業況 DI も 18.0 ポイント回復となった。業種別では、建築業 13 ポイント悪化。総合工事 12 ポイント、設備その他 56 ポイント回復となった。スタートは持ち直す兆しもあるが、先行きは不透明との声も寄せられている。</p>  |
| 製造業   | <p>仕入単価 DI24.3 ポイント悪化。売上 DI16.7 ポイント、採算 DI4.7 ポイント、従業員 DI3.8 ポイント、資金 DI23.3 ポイント回復、総じて業況 DI も 35.8 ポイント回復となった。業種別では、食料品 42 ポイント、印刷出版 33 ポイント、家具木材 47 ポイント、金属窯業他 23 ポイント回復となった。</p>  |
| 卸売業   | <p>仕入単価 DI19.3 ポイント悪化。売上 DI6.4 ポイント、採算 DI0.4 ポイント、従業員 DI8.4 ポイント、資金 DI2.0 ポイント回復、総じて業況 DI も 11.9 ポイント回復となった。業種別では、食料品 8 ポイント悪化。繊維 8 ポイント、機械鋼材 21 ポイント、その他 31 ポイント回復となった。天候異変による遅い雪、低温による生育遅れ、購買力低下が顕著に現れた月となったとの声も寄せられている。</p>                        |
| 小売業   | <p>売上 DI3.6 ポイント、仕入単価 DI7.7 ポイント、資金 DI3.6 ポイント悪化。採算 DI1.8 ポイント、従業員 DI13.2 ポイント回復、総じて業況 DI も 15.2 ポイント回復となった。業種別では、衣料品横ばい。食料品 30 ポイント、家電時計 12 ポイント、自動車 14 ポイント回復となった。この時期は、いかに動くかで年間の売上が決まるため、皆必死に営業をしているとの声も寄せられている。</p>                              |
| サービス業 | <p>採算 DI11.7 ポイント、仕入単価 DI29.2 ポイント、資金 DI1.7 ポイント悪化。売上 DI16.2 ポイント、従業員 DI9.1 ポイント回復、総じて業況 DI も 15.4 ポイント回復となった。業種別では、ホテル 25 ポイント悪化。クリーニング横ばい。飲食 60 ポイント悪化。その他 25 ポイント、飲食 25 ポイント、整備業 67 ポイント、運送 5 ポイント回復となった。新規開業のホテルがあり、一層の競争激化の状況となるとの声も寄せられている。</p> |